

令和6年度小幡北小学校努力点（案）

1 研究主題

「主体的に学び続ける子の育成」～自分で選んでやってみよう～

2 主題設定について

(1) 主題設定の理由

新学習指導要領に示されている育成すべき資質・能力の3つの柱の中に、「学びに向かう力、人間性」がある。これは、教師から与えられるものに対して受動的に学ぶのではなく、自ら課題を見付け、それに対する解決方法を考えて実行していくような、主体的に学ぶ力を育成することが求められていると考える。また、ナゴヤ学びのコンパスでは、目指したい子供の姿として、「ゆるやかな協働性の中で自律して学び続ける」ことを示している。さらに、目指す子供の姿は、本校学校教育目標である「自律と尊重」においても一端を担うものである。

以上のことから、子ども一人一人が自律して学びを進めることができるように、「主体的に学び続ける子の育成」という主題を掲げ、実践を進めることにした。ここでいう「主体的に学び続ける子とは、子供自らが“学び方”のよさを理解し、自分で“学び方”を選択し、学びを進めていく子とする。

(2) 実践の経過

令和5年度は、**1年目として**、主体的に学び続ける子を育成するために、到達度目標と学び方を子供に選択させる実践を行った。実践を行う中で、子供たちが自ら到達度目標や”学び方”を選び、学びを進めている姿が見られ、一定の成果を得た。しかし、子供たちに到達度目標や”学び方”を**選択させる**上で、「どの到達度目標にしたらいいか判断できない」子やそれぞれの学び方のよさを理解していないからか、「いつも同じ学び方を選択する」子が見られた。

そこで、令和6年度は、それぞれの学年部（発達段階）に応じた**目指す子供像**を設定し、系統的な手立てを講じることで、課題を解決したいと考える。

(3) 目指す子ども像の具体化

学年	各学年の目指す 子供像
低学年	様々な学び方のよさを 知り 、 学びを進められる子
中学年	適切な学び方を自分で選択し 、 学びを進められる子
高学年	主体的に学び続ける子

目指す子ども像に**迫るために**、低学年では、学び方の良さを知ることができる。中学年では、学び方の良さを理解した上で、自分に“適切”な学び方を選択して学べるようにする。高学年では、低学年・中学年で学んだことを生かして、子供自らが”学び方”のよさを理解し、自分で選択し、学びを進められるようにする。